

平成6年度坂井記念特別賞の表彰

本学会では情報処理の研究・開発に携わる優秀な若手研究者を表彰の対象として、平成4年度から元会長坂井利之先生（京都大学名誉教授 龍谷大学理工学部長）から、寄贈された資金により坂井記念特別賞を設けました。

本賞は、情報処理に関する基礎・理論、ハードウェア、ソフトウェア、アプリケーションなどの各分野の研究・開発に携わっている研究・開発者で、学術・技術の進歩に顕著な貢献が認められ、今後の進歩、発展が期待される39歳までの研究・開発者を対象としています。

本年度の受賞者は「坂井記念特別賞候補者推薦書」により推薦された候補者7名から表彰規程および坂井記念特別賞候補者選定手続にもとづき、平栗副会長を委員長とする選定委員会において厳正な審査を行い、下記の2君が第396回理事会（平成7年3月）の承認を得て決定されました。

なお、本学会表彰規程により、5月19日に開催された第37回通常総会において、受賞者に表彰状および賞金が授与されました。

●アプリケーション分野

「高度画像処理のためのシステムアーキテクチャに関する研究」

谷口倫一郎君（正会員）

1955年11月生、1978年九大工学部情報工学科卒、1980年同大学院修士課程修了、1979年同大学院総合理工学部研究科助手、1989年同研究科助教授。

[業績推薦理由]

画像処理に必要なデータ構造とアルゴリズムの関係を整理、組織化し、設計と性能評価を行い画像並列処理技術開発に貢献した。画像処理以外への応用も期待できる。

●ハードウェア分野

「冗長表現を用いた算術演算回路アルゴリズムの研究」

高木 直史君（正会員）

1959年3月生、1981年京大工学部情報科学科卒、1983年同大学院修士課程情報工学専攻修了、同博士後期課程情報工学専攻中途退学、同工学部情報工学科助手、同助教授、名古屋大学工学部情報工学科助教授、京都大学工学博士、1983年IBMT. J. Watson 研究所 Predoctoral Fellow, Stanford 大学 Visiting Scholar.

[業績推薦理由]

冗長表現による各種演算回路について非常にユニークな研究を行ってきた。国内、国外のメーカーに採用され、また計算機ハードウェアの分野で論文が最も参照されている日本人研究者である。